

講義名称	美術	担当教員名	喜多村 徹雄
科目群	人文学 (HUM)		
科目区分等	芸術 CA7 DI5	単 位	2
対象学年次	1年・秋学期	ナンバリング	HUM151

授業のキーワード	美術をとおした学び、表現、社会
授業の概要	生涯にわたって生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関われるよう、美術の意味や意義を知るとともに、今日の社会における美術の機能について考える力の育成を目的とします。小実技を含みます。
期待される学習成果 (目標)	1. ことばや色、形による表現や鑑賞をとおして、表現主題の背景 (個別、社会的) について想像する力が身につきます。 2. 美術表現をみることで様々な今日の問題について考えるきっかけが身につきます。

授業展開		
回	テーマ	内 容
1	ガイダンス	授業の進め方や評価について説明します。
2	子どもたちの表現	子どもたちの造形表現の特徴と意味について考えます。
3	美術の始まり	有史以前に始まる美術的表現について考えます。
4	古代の美術	古代オリエント美術、ギリシア美術、ローマ美術について説明します。
5	中世の美術 1	初期キリスト教美術、ビザンティン美術について説明します。
6	中世の美術 2	ロマネスク美術、ゴシック美術について説明します。
7	中世の美術 3	ルネサンス美術、15世紀北方美術について説明します。
8	近世の美術	バロック美術、ロココ美術とその社会背景について解説します。
9	近代の美術 1	新古典主義、ロマン主義、写実主義とその社会背景について説明します。
10	近代の美術 2	近代美術について考えるとともに、印象派の描法について説明します。
11	近代の美術 3	近代美術を技法、技術、メディアの観点から考えるとともに、キュビズムの描法について説明します。
12	近代の美術 4	様々な近代の運動を造形探求と社会背景の観点から説明します。
13	近代から現代へ	近代から現代へ移行する際に生じた美術の概念的変容を社会背景および思想から考えます。
14	現代美術と社会	現代美術の背景にある社会の動きについて考えます。
15	まとめとふりかえり	授業を振り返り、社会における美術の機能について確認します。

定期試験	中間レポートと最終レポート。毎回のリフレクションシートの提出を求めます。
授業時間外学習	美術史の流れや様式について参考資料や教科書等をとおして予習し、授業で学習した内容を復習としてノートにまとめる。概ね各45分。
評価方法	レポート60%、リフレクションシート20%、授業への貢献度20% 中間および最終レポートには評点 (A~D) をつけ、リフレクションシートは次
使用する教科書 (必ず購入してください)	高階秀爾『増補新装 カラー版 西洋美術史』美術出版社、2002年
参考文献	暮沢剛巳『現代美術のキーワード100』ちくま新書、2009年 高階秀爾『近代絵画史(上) 増補版』中央公論新社、2017年